



イノベーション拠点としての大学

慶應義塾大学
総合政策学部長
インキュベーションセンター所長

國領二郎

慶應義塾大学と近代産業



- ・1858年創設。日本で最初の近代的大学。
- ・私学。明治以来、近代企業の成立と発展に卒業生たちが深く関与してきた。官僚機構を支えた東京大学に対して、近代産業確立のリーダー役を担ってきた。
- ・伝統は引き継がれ、日本のインターネット企業のほとんどに慶應義塾出身者が関与している。
- ・産業界における卒業生の層の厚みと求心力の強さが絶対の強み。
- ・グローバル経済に即した制度整備などにまい進中。

より大きな文脈： イノベーションの基盤づくり



- ・ 明治以来作ってきたイノベーションシステムの構造が疲弊している？
- ・ 戦後：大企業の中央研究所が発達（海外ではベル研究所などが代表例。日本でも主要大企業の研究所が大きな役割）大学は人材育成と基礎研究に特化
- ・ 1990年代になってから、「オープンイノベーション」の波が打ち寄せる。大学発イノベーションへの期待がにわか
→現実に大きなギャップがある。文化の違い、制度の不備



広がるChasm？

前期基礎研究

必要資金小
公開研究

後期基礎研究

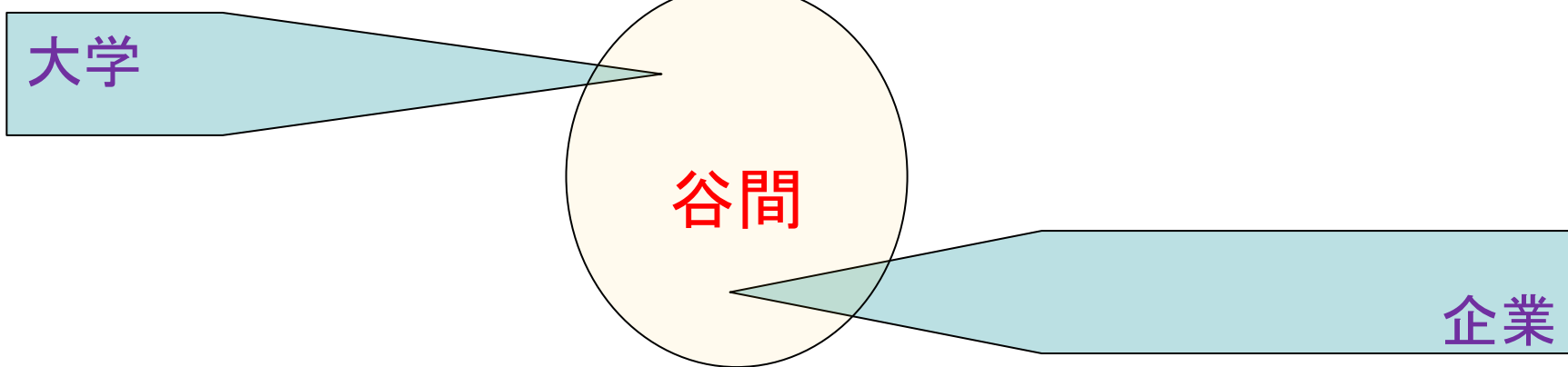
必要資金大
知財

応用研究

必要資金大
知財

製品開発

集中
スピード



Moore, Geoffrey, "Crossing the Chasm: Marketing and Selling High-tech Products to Mainstream Customers, Harper Business Essentials, 1991 revised 1998. (邦訳: 川又政治, 『キャズム』, 翔泳社, 2002年.)

産官学連携の国策化



1980年 米国:バイ・ドール法

→ 知的所有権の機関帰属化

1998年 日本:大学等における技術に関する研究成果の民間事業者への移転の促進に関する法律

1999年 産業活力再生特別措置法 30条 55条

1998年 慶應義塾知的資産センター設立

2003年 総合研究推進機構設立 (IPC、インキュベーションセンター、研究推進センター)